

石山寺増改築工事の財政と銭貨

2001年12月19日

日本銀行金融研究所貨幣博物館 貨幣史研究会

正倉院文書中の中倉文書 写経所政所関係文書と造石山寺所関係文書

両者が混じって現在まで残存した事情

……吉田孝「律令時代の交易」(『日本経済史大系』1 古代、東京大学出版会、1965.6、
『律令国家と古代の社会』岩波書店、1983.12)

後者の史料としての整理、内容的な分析

……福山敏男「奈良時代に於ける石山寺の造営」(『日本建築史の研究』桑名文
星堂、1943.10、綜芸舎覆刻、1980.12)

福山の史料整理の確認・補強

……岡藤良敬『日本古代造営史料の復原研究』(法政大学出版局、1985.3)

〃 『造石山寺所関係文書・史料篇』(『福岡大学総合研究所報』100、1987.3)

基礎的研究はすでにできている……史料の接続関係・復原、増改築工事の詳細

その上に、部分的な研究あり

様工、労働力の性質

材木漕運(紫香楽から)、輸送手段(車)

流通経済構造

孝謙太上天皇勅願鏡の鑄造

封戸物の徴収

大般若経の写経事業

しかし、銭貨の流通そのものに焦点を当てた研究はない。

この工事をめぐって、物資の移動、労働力の動員が引き起こされた。

その中で銭貨はどのように存在したか？

まず、最終決算報告書から検討する

天平宝字6年閏12月29日「造石山院所解案」(秋季告朔)

収入・支出の諸物資を列挙

ただし、帳簿操作が行われていることを考慮する必要がある。

銭貨の項がほとんど欠失 銭の使い方がよくわからない

「請奈良司」 銭貨は奈良司から何回かに分けて供給されていた
造東大寺司

支出 山作と足庭の関係、買信楽殿壊運関係に分けて記入

山作足庭

功直に支出 山作工、桴工、山作夫

買食物価

買雑物価

(買雑)器価

物品ごとの用残

そのうち、「買」による入手

容器 など	槽、鉄釜、箕、明櫃、折櫃、麻笥、杓、 陶片杯、埴、竈戸、瓮、土盤
資材	白綿、賃布、租布、紙、墨、鹿毛筆、 墨縄、五色幣帛、漆、藁、俵縄、檜皮
食料	米、塩、海藻、滑海藻、菹、芥、茄子、 粉酒

孝謙太上天皇勅願鏡の鑄造は独立採算 除外

「容器」 陶器類の多くは購入 埴、竈戸、瓮、土盤

鉄釜を購入していることも注目される。

木製の手工業品 奈良司からの供給と購入→購入は手工業品の流通を示す

「資材」 白綿～五色幣帛 上と同じく、手工業品の流通を示す。

漆、藁、檜皮は生産地の近くなので流通していたのであろう。

漆、藁はほぼすべて購入

檜皮は購入1：供給2の両方 ともに近江

大石山は両方に共通 なぜ？

院中で購入とは、院まで運び込まれたものを購入したのであろう。

「食料」 米は購入1：供給2の両方

供給は、愛智郡の庸米、租米が中心

奈良司からの供給はわずか

購入は足庭 足庭まで運び込まれたものを購入したのであろう。

他は信楽殿壊運所が購入

塩 9割が購入

芥、茄子の生鮮野菜はすべて購入

発酵食品は奈良司から供給

粉酒は半分が購入

「造寺料銭用帳」と比較

購入品目

容器 など	麻笥、明櫃、折櫃、杓、竈戸、瓮、埴、 片杯、陶片杯、土片杯、箕、槽、土盤 ----- 小笥、片椀、木升、鎌、川船、窪杯 ----- 鉄釜
資材	幣帛、紙、墨縄、綿、檜皮、鹿毛筆、墨、 漆、租布、俵縄、藁、凡紙 ----- 裳 ----- 白綿、賃布
食料	若滑海藻、粉酒、塩、海藻、芥、茄子、

銭用帳独自

秋季告朔独自

黒米、白米
小豆、葉芹、糟、蕨、白酒、菓子、大豆、 大角豆、瓜
菹

「容器など」鉄釜が見えない

鎌を購入 鉄製品であろう……鉄製品の流通が想定される

「食料」 秋季告朔以外にも生鮮食料品を購入

売り手は誰か？

この史料で注意されるのは、費目の流用を行った旨の記載

6月19日以後

ただし、史料の切れ目 数日程度さかのぼるかもしれない

しかし、6月前半頃からであることは動かない。

費目と使用目的との間に関連はない。

はじめから経所仕丁功直、銅工功直を流用

経所の米売価は約1ヶ月遅れる

前者は銭そのものであるので流用しやすい。

後者は米を売却して銭貨に変えてから流用したので遅れた。

したがって、6月前半頃から一斉に流用開始したと見てよい。

米を換金できる環境が石山周辺に形成されていることを前提にした措置。

写経所の財源の流用

宝字6年1月 発願

1～2月上旬 写経堂の建設

2月上旬～11月中旬 写経

12/5 奈良へ送付

故に、6～8月頃は写経事業の進行途中。それにもかかわらず流用。

その理由 ①造寺所における米(7月下旬)、功直の不足(8月上旬)

②「米売価銭用帳」

「米売価銭用帳 第二帳」石山写経所の帳簿

第一帳は残っていない

- ・売却物は米に限らない 大豆、小豆、糯米もある。
- ・支出目的は米の購入が中心

米を買うために米その他を売却したことになる。

売却価格が不明なのではっきりしたことが言えないが、利ざやを稼いだのではないか。

猪名部枚虫に買米料を付している

彼は勢多荘領→勢多荘で米等の売買が行われていたのではないか

「公文案帳」

しかし、すべてがそうではなからう。

秋季告朔：米の購入は足庭でも行われていた。

すなわち、勢多荘・足庭などで米を売買する環境があり、それを利用して銭貨の増加をはかっていたのではないか。

- ・支出目的の中に功直なし。

すなわち「造寺料銭用帳」の「経所米売価」と「米売価銭用帳」の財源とは別

両者を併せたものが写経所の売却額

その一部を造寺所に回したと考えられる。

- ・鉄足釜を購入

鉄製品の流通を示す。

造寺所の銭貨収入……写経所の財源の運用益が含まれる可能性あり

その他の収入はどこからのものか？

「雑物収納帳」

銭貨は「奈良寺政所」「奈良寺」「上院」から受け取っている。

これは、それぞれ何か？

それを解くためには、「公文案帳」「蓄貯継文」を見る必要がある。

造東大寺司政所と東大寺上院

山作所と銭貨

告朔解の銭貨部分の収支

- ・田上山作所は、すべて造寺所から支給をうけている。

そのほとんどは功直に充当

わずかに手工業製品を購入

- ・甲賀山作所は、「荘」と造寺所から。

「荘」は勢多荘であろう。

勢多荘では米の購入を行っているが、それだけでなく、

何かを売却して銭を入手していた可能性がある。

田上山作所に比べて、購入に頼る割合が大きい。

米と副食品の購入

甲賀における流通経済の一定程度の進展

「雑材并檜皮和炭納帳」

楡樽 高嶋山 勝屋主が進上……秋季告朔に見えない。

檜皮 三雲山 右兵衛物部東人が進上

……秋季告朔では三雲橋本で購入、しかし珠清

大石山 秦足人が進上……秋季告朔に合致。

大石山では様工が活動 彼らとの交易である可能性が高い。

石山寺増改築工事にともなって、石山寺周辺で物資の動きが起こる。

米、大豆、小豆、木工品、繊維製品、鉄製品、酒、生鮮野菜など、多品目にわたる。

これらの物資の移動は、銭貨を媒介としていた。

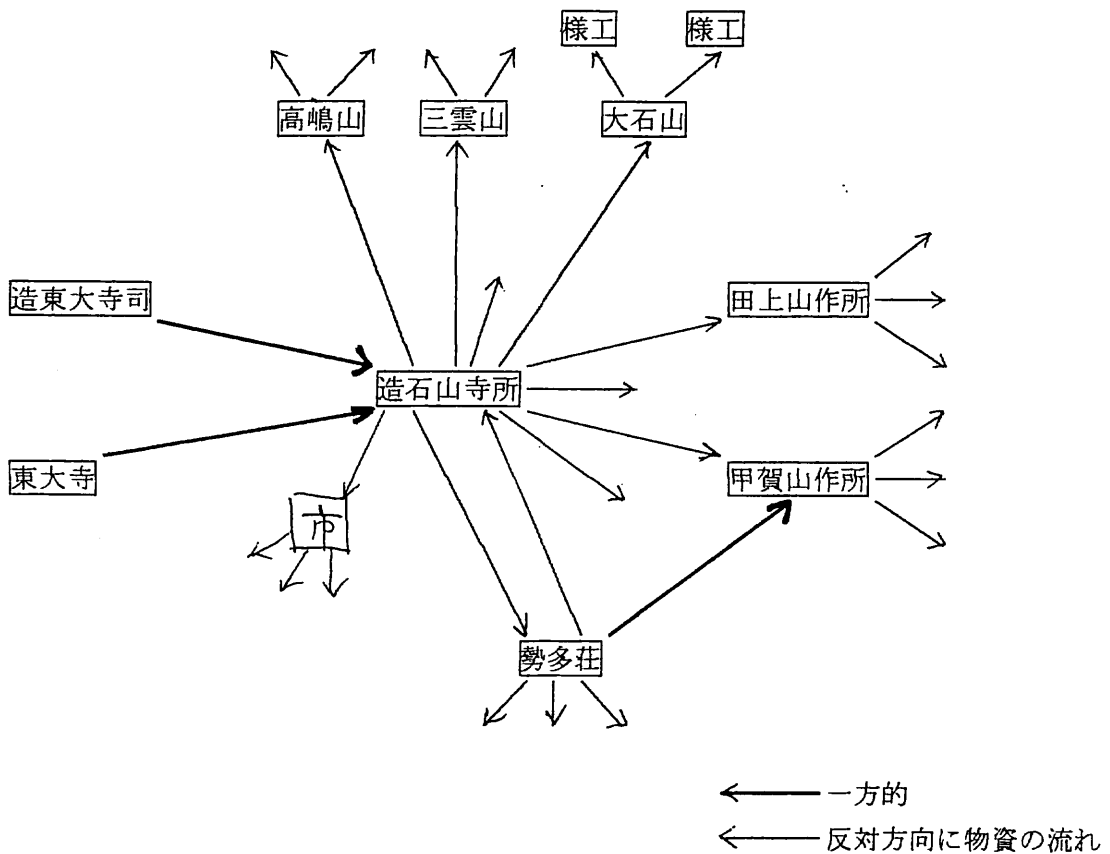
銭貨は、石山寺周辺で流通

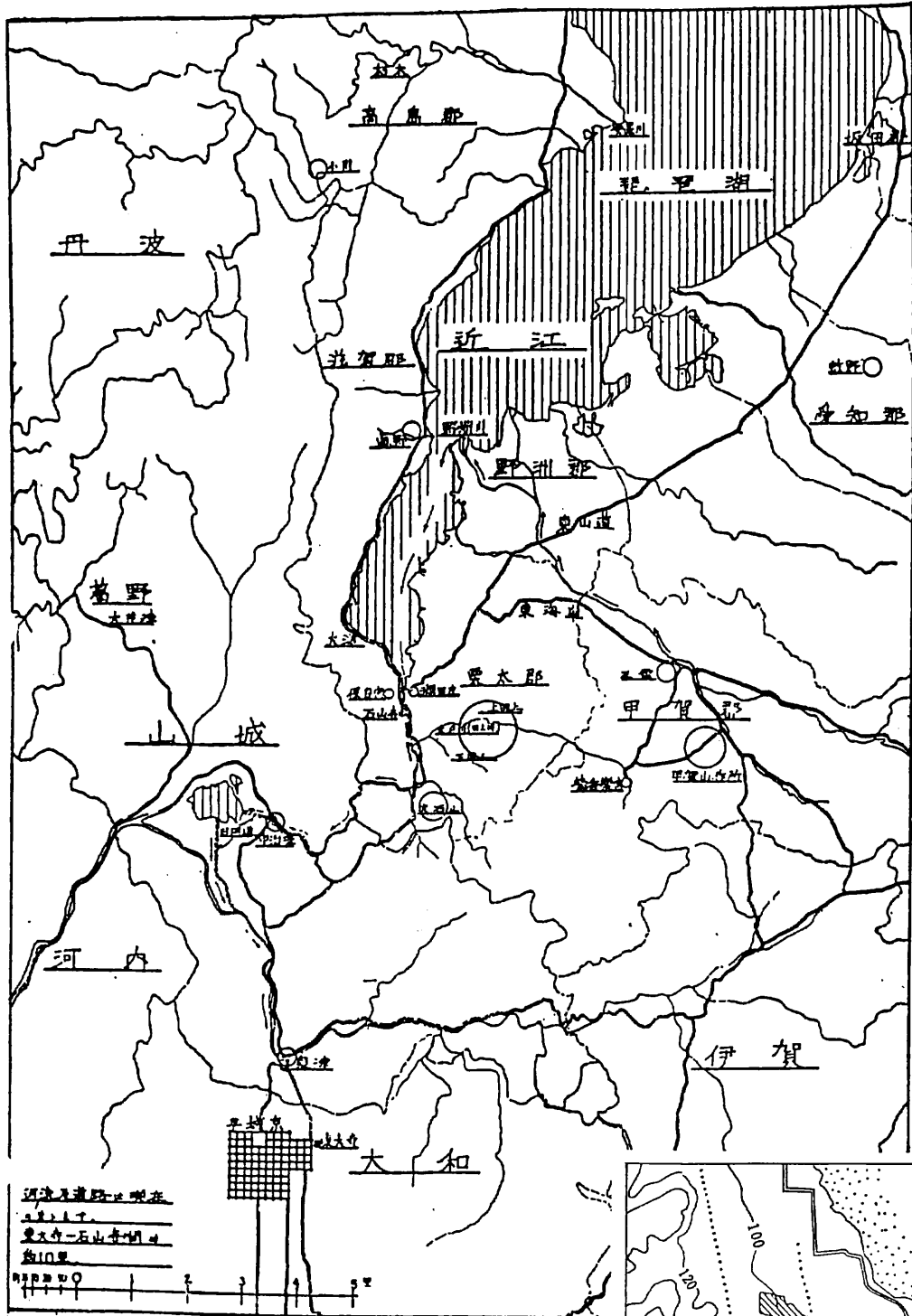
勢多には「市」があったことが確認できる。

勢多川流出部を中心に銭貨流通圏が形成されていたと見てよからう。

それだけでなく、甲賀、三雲、高嶋地方にも流通していった。

近江国における銭貨出土例の多さと関係するかも知れない。





河内及道野に現在
 大和寺
 栗太寺-石山寺
 爲山寺

石山寺に替るる略地圖

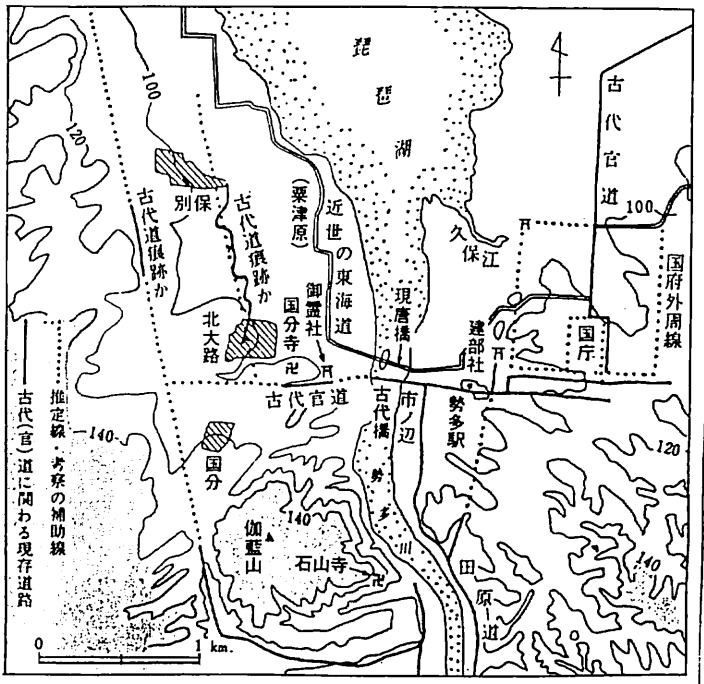


図1 近江国府と小字「市ノ辺」
 (足利健亮氏の原因を一部改変)